

(別紙)

2 圏域や市町ネットワークシステム構築支援

(1) 連絡会・協議会

ア 行政関係

令和3年度障害者雇用支援連絡協議会	実施日	第1回 6月15日(火)	
	開催機関	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 静岡障害者職業センター	
	協議事項	県内の精神・発達障害者の就労支援ネットワークづくりと職場定着支援の促進	
	参加機関	静岡労働局、公共職業安定所、障害者就業・生活支援センター、障害者就労移行支援事業所、発達障害者支援センター、企業	
駿東田方圏域自立支援協議会相談部会	実施日	第1回 6月11日(金)	第2回 11月12日(火)
	開催機関	駿東田方圏域自立支援協議会事務局	
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会における課題共有 ・圏域における課題抽出 ・運営会議における議題・報告内容の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点機能の実情と課題について ・在宅重症心身障害児や難病児者の医療的ケアについて ・基幹相談支援センターの実情と課題について
	参加機関	相談支援事業所、市町行政福祉課、圏域スーパーバイザー、県健康福祉部障害者政策課	
静岡県発達障害医療福祉教育連携ネットワーク会議	実施日	第1回 11月10日(水)	
	開催機関	静岡県健康福祉部障害者支援局	
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆医療福祉センターにおける発達障害児の診療状況について ・早期療育へのつなぎのための取り組みについて ・かかりつけ医研修・陪席研修について 	
	参加機関	医療機関、圏域スーパーバイザー、児童発達支援センター、相談支援事業所、県教育委員会、特別支援学校、市町行政福祉・保健課、県障害福祉課	
静岡県発達障害者支援地域協議会	実施日	第1回 12月16日(金)	
	開催機関	静岡県健康福祉部障害者支援局	
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次静岡県障害者計画素案(発達障害者支援関係)について ・発達障害初診待機解消の取組(報告事項) ・令和3年度発達障害者支援関連研修 ・発達障害者支援に係る市町調査結果報告 ・第8次静岡県保健医療計画中間見直しについて ・自閉症啓発デーの取組について 	
	参加機関	医療系大学、県立病院、県医師会、県知的障害者福祉協会、相談支援事業所、教育系大学、障害者職業センター、県自閉症協会、県手をつなぐ育成会、市町行政福祉課、発達障害者支援センター、司法関係機関	

(別紙)

イ 教育関係

令和3年 静岡県自立支援協議会 学齢部会	実施日	第1回 7月29日(木)	第2回 11月26日(金)	
	開催機関	静岡県教育委員会特別支援教育課		
	協議事項	学齢期における特別支援教育の総合的な推進を図るための意見交換や情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度末特別支援学級在籍生徒(中3)進路状況について ・特別支援学校のセンター的機能強化への取り組み案(令和3、4年度)について ・中高連携シートについて(情報共有) 	
	参加機関	相談支援事業所、市町行政福祉課、圏域スーパーバイザー、県健康福祉部障害者政策課		

ウ その他関係団体

発達障害者支援センター全国連絡協議会 令和3年度役員会・懇談会	実施日	第1回 4月9日(金)	第2回 6月4日(金)	第3回 令和4年 1月7日(金)	
	開催機関	発達障害者支援センター全国連絡協議会			
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回役員会、第1回懇談会 ・役員体制、総会議案、実務者研修会、調査研究、世界自閉症啓発デー、コロナ対策、その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回役員会 ・総会、実務者研修会、その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回役員会、第2回懇談会 ・令和4年度役員体制、総会・実務者研修会、世界自閉症啓発デー、調査研究、事業実績報告、会報、その他 	
	参加機関	全国連絡協議会役員、ブロック代表、厚生労働省、文部科学省、発達障害・情報センター、発達障害教育推進センター、特別支援教育総合研究所業			
令和3年度発達障害者支援センター全国連絡協議会中部・北陸ブロック会議・研修会	実施日	令和4年1月24日(月)			
	開催機関	発達障害者支援センター全国連絡協議会			
	協議事項	各センターの紹介、協議・情報交換 研修会：発達障害と精神疾患の合併 大正大学教授・よこはま発達クリニック院長 内山 登紀夫 氏 話題提供：発達障害児者とゲームやネットとの付き合い方 大湫病院・児童精神科医 関 正樹 氏			
	参加機関	中部・北部ブロックの発達障害者支援センター (15)			

(2) その他の連絡会

ア 静岡県東部発達障害者支援センター連絡協議会

実施日	協議事項	参加機関
第1回 7月21日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 新委員紹介 2 事業運営について 3 県東部における課題等について 4 事故・ヒヤリハットについて 	県自閉症協会、県手をつなぐ育成会、 県東部精神科医師・ケースワーカー、 相談支援事業所、障害者支援施設、 県東部児童相談所、県保育連合会、私立

(別紙)

第2回 令和4年 1月31日(月)	1 新委員紹介 2 事業報告(令和3年度12月まで) 3 意見交換	幼稚園振興協会、県静岡教育事務所、 私立高校・専修学校・サポート校等、 特別支援学校、公共職業安定所、障害 者就業・生活支援センター、県障害福 祉課
-------------------------	---	--

イ 静岡県内発達障害者支援センター連絡会

実施日	協議内容	開催地
5月24日(月)	各事業所の運営状況 コロナ対策等の意見交換	リモート開催
令和4年 3月2日(水)	各事業所の運営状況 自閉症啓発デーの実施計画について等	リモート開催

ウ 親の会との意見交換会

*静岡県内の各種親の会と意見交換をした。

実施日	参加団体
9月5日(日)	静岡県LD等発達障がい児・者親の会「きんもくせい」
12月1日(水)	静岡県ことばと心を育む会東部
1月12日(水)	静岡県自閉症協会
未定	静岡県手をつなぐ育成会 東部連合会

エ その他

実施日	参加団体
5月13日(木)	「発達障害を考える」議員連盟
7月16日(金)	静岡県中小企業家同好会障がい者問題委員会
7月19日(月)	第1回障害者就業・生活支援センターひまわり連絡会議
9月7日(火)	第1回発達障害情報分析会議

(別紙)

3 その他

(1) 広報・啓発

ア 世界自閉症啓発デー及び発達障害啓発週間に関する啓発活動

(令和2年度中に計画し、令和3年度に実施した活動)

実施日	実施内容	実施場所
4月2日前後	ブルーライトアップ	富士川楽座大観覧車 (Fuji Sky View) 沼津港大型展望水門びゅうお 御成橋 三島スカイウォーク 富士山世界遺産センター
3月末～4月初旬	図書館でのポスター掲示や特設ブースの設置など	20館に訪問依頼
4月2日・3日	映画祭 (かの川キラキラ映画祭) 自閉症や発達障害に関連した映画を6本上映	プラザヴェルデ (115名参加)
4月4日	アスルクラロ沼津 vs Y.S.C.C.横浜戦にて、会場アナウンスやリーフレット配布等の啓発活動	愛鷹広域公園多目的競技場
1月～4月	企業団体等による啓発活動協力	沼津商工会議所、公益社団法人沼津法人会、沼津信用金庫、三島信用金庫、富士信用金庫、富士宮信用金庫、アスルクラロスルガ株式会社、株式会社イシバシプラザ、日清プラザ株式会社、大東紡エステート(株)、ふじのくに千本松フォーラム プラザヴェルデ、サンウェルぬまづ (※敬称略、順不同)

イ 企業訪問

実施日	内容
8月26日(木)	世界自閉症啓発デーの協力依頼
10月21日(木)	世界自閉症啓発デーにおける啓発活動の打合せ

ウ 原稿

実施日	内容	掲載
	<特集 発達障害> さまざまな施設との連携 「発達障害者支援センターとの連携」	精神科 Resident Vol.2 No.3 2021

(2) 当事者グループ

ア 学齢児グループ

*発達障害のある学齢児の子どもに対して、それぞれの発達段階に応じた活動を提供しながら、社会性を促すためのグループ活動を行った。(小学校中学年以下で発達障害の診断があり、小集団での活動が可能な児童を対象)

(別紙)

実施日	開催内容	開催場所	参加者
7月30日(金)	社会性の発達状況に合わせて Structured TEACCHingを用いたグループ活動を実施	アスタ多目的室 1・2、生活指導室、研修室	各回4名
8月2日(月)			
8月3日(火)			

イ 成人グループ

*発達障害のある当事者に、他の当事者とのセンター職員ファシリテートのもと、当事者同士が情報を共有し、共に自己理解を深める。(主として大学卒業以上で就労経験と診断があり、集団での話し合いが可能で効果が見込まれる方を対象)

実施日	実施内容	開催場所	参加者
6月26日(土)	交流会のマナー、自己紹介、発達障害のDVD鑑賞、発達障害に関する自己の経験等の意見交換	アスタ研修室	各回3~4名
10月23日(土)	自己紹介、リラックスとストレスについて、休日の過ごし方について		
12月4日(土)	自己紹介、苦手な人との付き合い方について、友達について		
令和4年 3月5日(土)	未定		

(3) 遠隔地への相談対応

ア 賀茂地域への出張相談

*来所相談の利便性に配慮し、賀茂地域への定期的な出張相談を実施した。

日程	一般相談	支援者からの相談	実施場所
5月13日(木)	2	2	下田総合庁舎会議室
9月9日(木)	1	2	
11月11日(木)	3	2	
1月13日(木)	1	1	
3月10日(木)	予定	予定	

イ 賀茂地域の医療機関でのZoomによる相談

*賀茂地域の医療拠点との連携を考慮し、小児科の患者、家族、関係者、職員を対象として、定期的なリモート相談の機会を設定した。

日程	相談件数	実施方法
6月11日(金)	1	リモート
8月27日(金)	2	
10月15日(金)	0	
12月17日(金)	1	
2月18日(金)	0	

(4) 発達障害者支援センターとしての専門性向上

ア 職場外研修への参加

(別紙)

*国立施設、民間機関などで開催された研修会等計4件に参加した。

実施日	研修名称	主催者	開催地
6月4日(土) ～6月5日(日)	令和3年度発達障害者支援センター全国連絡協議会実務者研修	発達障害者支援センター全国連絡協議会	リモート
6月18日(金) 6月22日(火) 6月23日(水)	発達障害者支援センター職員研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	リモート
7月9日(金) 7月16日(金) 7月27日(火)	就労支援基礎研修	静岡県障害者職業センター	静岡市
1月24日(月)	令和3年度発達障害者支援センター全国連絡協議会 中部・北陸ブロック研修会 「発達障害と精神疾患の合併」	発達障害者支援センター全国連絡協議会 中部・北陸ブロック	リモート

イ スーパービジョン事業

期間	回数	内容	スーパーバイザー	開催地
6月～10月	24	PCITのセッションにおけるスーパーバイズとセラピストトレーニング	PCIT国際ショナル認定トレーナー	リモート

ウ その他

事業開始2年目であるが、必要な知識や技術の習得や事業所の方針の周知、職員間の意見交換の場等として、昨年度に引き続き定期的に所内勉強会を開催した。また、自主的に研修会に参加するなど、専門性の向上に努めた。

(4) リスクマネジメント

ア 事故・ヒヤリハット

事故の種類	主な内容	件数
メールの誤送信	研修案内のメール準備中、誤って研修登録者514名全員に案内を送信したため修正メールを再送した。個人情報に含まれていない。	1
	合計	1

ヒヤリハット	主な内容	件数
事務処理	給与計算の間違え、報告書の計上漏れ、研修講師派遣依頼の宛名間違え、研修申し込み手続き不備、電話が切れたと勘違いし数分保留	5
研修関係	研修資料のダウンロード期限設定ミス、研修講師に当日アドレス未案内、オンデマンド配信時にパスコード設定で案内	3
予定確認	外部のWeb会議の時間を間違え、面談予定記載ミスによる面談の重複、理事会日程の変更記載がなく他の会合をブッキング	3
安全管理	ポットの空焚き、賞味期限切れの牛乳を利用者支援に提供、相談室の窓の鍵をかけ忘れ、公用車キーの返却忘れ、共用キーの返却忘れ	5

(別紙)

個人情報関連	面談時に他の方の名前が記載されているメモ用紙を使用、保留電話を取り間違え電話対応、電話番号の転記ミス、利用者動画のSDカードを一時紛失	4
その他	誤って有料サイトに登録、外部機関からの問い合わせ対応を失念	2
	合計	22

イ 苦情解決

種類	内容	件数
苦情	他機関から勧められて連絡があった方で、相談の希望がなく、依頼内容が不明であったため、アスタから他機関に連絡を取り、他機関から相談者に説明してもらう予定であった。後日、相談者から、アスタからも他機関からも連絡がないことについて指摘を受けた。他機関との連絡調整が不十分で、対応の丁寧さを欠いたこと、ご迷惑をかけたこととお詫びした。	1
意見 (意見箱)	相談対応への感謝	1

静岡県 中西部 発達障害者支援センター事業報告

1 事業実績

※別紙のとおり

2 これまでの運営の総括及び次年度以降の方向性

これまでの運営総括	<p>地域の発達障害支援体制把握を市町関係機関と協働しながら、ライフステージに応じた身近な相談窓口との連携構築を図ってきた。</p> <p>センターの広報周知においては、上記市町機関との連携と合わせ広報誌、リーフレット等により認知が高まっている。</p> <p>コロナ禍による面談機関の制限などによるリモートの導入など、相談しやすい環境づくりにも取り組む。</p> <p>家族等支援事業の実施により、県内におけるペアレントメンターの養成がスタートした。</p>
次年度以降の方向性	<p>これまでの運営体制を維持しながら、地域支援体制強化のため、センターのハブ的機能の役割をベースにバックアップを図っていく。</p> <p>家族等支援事業については、メンターのマッチングなど配慮をしながら、地域の子育て支援環境を中心に派遣によるサポートを展開していく。</p> <p>人材育成研修においては、圏域・地域の提供状況を把握することでセンターとして地域ニーズに応じた研修提供を実施していく。</p>

3 相談支援の事例(他機関と連携した好事例・困難事例等)

(好事例)

相談者	母
ケース概要	小1ASD 男児 (支援級)
連携機関	小学校特別支援学級、教育委員会、相談支援事業所、放課後等デイサービス、主治医、医療機関AのPSW、医療機関BのOT
支援概要	本人への登校支援にかかる方策や家族へのアプローチが関係機関によって異なることから本人、保護者が混乱。主治医と連携しながら、ケース会議を重ねた上でキーパーソンをCOCOに設定し、教育・福祉・医療の共通認識と対応を図る。
ポイント	情報の集約と調整をワンストップで展開することで、家族が安定し支援機関も一貫性のある対応が可能となる。

(困難事例)

相談者	父・母
ケース概要	38歳男性・ASD、統合失調症
連携機関	市(社会教育課・福祉課)、相談支援事業所、県健康福祉センター
支援概要	市からの相談紹介で両親と定期的面談を実施。医療保護入院時から医療機関に拒否的。医療的支援を要しながらもつながりがもたないケース。
ポイント	両親も疲弊気味であり、8050問題へ直結するリスクが高い。市では早くから把握していたため、早期からの介入や情報提供が求められる。

4 各種研修、普及啓発等

(1) 各種研修 (主なものを抽出)

研修名	対象者	参加者数
地域支援システム研修	関係機関	123人
研修の概要	地域支援体制の構造評価(Q-SACCS)に関する概論及び管内市町の実践報告から、支援システムの共通視点をもち構造強化の活用を図る。 講師：本田秀夫氏(信州大学)・実践発表(焼津市・牧之原市)	
期待する効果等	管内市町の保健・教育・福祉機関における庁内横断体制による発達支援システムの可視化により、途切れない支援の体制構築を図るとともに、圏域単位で実践を共有しながら相乗効果をはかる。	

研修名	対象者	参加者数
キャリア支援研修	高校・大学、福祉機関	45
研修の概要	高等学校及び大学からの就職、進路支援のためのつなぎにおける関係機関との連携を図るため、現状の把握と課題について教育福祉の意見交換を実施する。	
期待する効果等	教育機関の学内体制から学外連携に視点を広げ、多職種が支援の連携を図ることをねらいとする。	

研修名	対象者	参加者数
家族等支援キックオフ研修	当事者家族・支援者・一般	291
研修の概要	静岡県家族等支援事業(ペアレントメンター養成・ピアサポート支援者)実施にあたり、概論及び先進地の実践報告から本県における家族支援のあり方の共通理解をはかる。 講師：井上雅彦氏(鳥取大学)・シンポジスト4名、CO	
期待する効果等	今後、派遣先となる市町に対しペアレントメンターの理解や利用効果の共通的認識が促進される。	

(2) 普及啓発事業等

取組名	対象者	取組概要
世界自閉症啓発デー関連啓発	一般	・Jリーグ(磐田・藤枝)ホームゲームでの啓発イベント ・金融機関窓口への啓発画像の掲出 ・管内市町図書館における特集コーナーの設置
広報誌への掲載	一般	・市町広報誌への事業概要紹介掲載 ・新聞社フリーペーパーへの事業紹介

5 関係機関との連携

(主な取り組み)

構成員	志太榛原圏域自立支援協議会 (行政・相談支援・福祉事業所・特別支援学校・医療機関等)	
開催日	運営部会(7月・11月)	こども部会(6月、12月、1月)
協議事項	研修体系調査、各地域協議会の地域課題に関する共有、調整	市町担当課・教委・小中高CO・相談支援による発達支援フローの作成及び協議

構成員	中東遠圏域自立支援協議会 (行政・相談支援・福祉事業所・特別支援学校・医療機関等)	
開催日	運営部会 (2月)	こども部会 (7月・3月)
協議事項	地域支援システム簡易構造評価の実施と各市町間共有	教育・福祉連携にかかる地域支援体制協議

構成員	中西部地域連絡会 (志太榛原及び中東遠圏域の各圏域スーパーバイザー、発達障害支援コーディネーター、就業・生活支援センター)	
開催日	5月	3月 (予定)
協議事項	各圏域における事業実施体制及び地域課題の共有と協働実践の検討	各圏域の事業実施内容の共有と次年度の共同実践の計画

(1) 医療関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース支援において主治医、地域連携室等とタイムリーかつ緊密な連携を図ることができた ・ケースに応じ、同行受診支援や支援機関による受診相談を実施 ・県立医療機関児童精神科医からの定期的なコンサルテーションを受け、医療福祉連携のセンター機能を確認
次年度以降の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きケースを通じた機関連携を展開していく ・コンサルテーションの継続実施

(2) 保健・福祉関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町発達支援連絡会に参画しながら、支援システム協議やケース検討を実施 ・市町協議会に参画しながら、福祉事業所との関係強化や地域の相談支援体制について協働的に協議をすすめる
次年度以降の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応じながら、体制強化のための後方支援を中心に展開していく

(3) 教育関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域協議会の場を通し、各地域教育委員会及び特別支援教育コーディネーターとの教育福祉連携に対する協議を実施 ・地域単位、県校長会との意見交換会の実施 ・高等学校特別支援教育コーディネーターとの意見交換会に参画し、ニーズ把握や課題を抽出、共有する ・大学機関とのキャリア支援連絡会を開催し、大学が抱える課題を共有しながら、各機関の体制を把握する
次年度以降の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市町教育関係とは、ケース支援を含めさらなる連携強化を図っていく ・高等学校、大学機関との連携強化を図るための協議の機会を検討していく